

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取西部） 3月号

（1） 営農指導員研究課題取組み成果発表

2月7日、J A本所で2018年度営農部・営農指導員による研究課題成果発表会を地域振興と日頃の営農指導力アップを目的に県農林局や普及所の職員、J A関係者ら約50名が出席して実施した。審査の結果、TAC部門の最優秀賞は「信頼されるTAC活動の形成・農家とJ Aを繋ぐTAC」を発表した営農企画課・TACの谷口裕志さんが輝き、「TACパワーアップ大会」の全国大会を目指す。営農指導員部門の優秀賞には営農指導員の池本亮平（日野営農センター）さんと谷川雅夢さん（中央営農センター）が選出され、2月27日の県大会へ出場した。県大会では池本亮平さんが見事最優秀賞となり、8月に開催される中国大会に出場する。



（2） 新品種「星空舞」の栽培講習会開催

2月17日、21日の両日（午前午後計4回）、J A本所で、鳥取米の新品種「星空舞」の栽培講習会を開催し、星空舞の特性や栽培ポイントなどについて説明がされた。2019年度は星空舞生産者登録233名、120haとなり、講習会には生産者や行政、J A関係者が出席した。

今後、栽培管理を統一し、品質を揃えて、鳥取西部米の新たな顔となるようにブランド化を図る。



（3） 選拔出場米子東高を農畜産物で激励

2月27日、米子市勝田町の鳥取県立米子東高校で、第91回選抜高校野球大会への出場を決めた同校野球部を応援するため、管内農畜産物を贈った。贈呈式には、谷本組合長や同校の校長、野球部員らが出席、谷本組合長が「部員の皆さんには鳥取西部の農畜産物をたくさん食べて体力をつけ、甲子園で頑張ってもらいたい」とエールを送り、主将の福島康太選手へ目録などを手渡した。

今回贈呈したのは、「星空舞」150キロ、鳥取和牛「オレイン55」5キロ、白ネギ30キロ、大山ブロッコリー「きらきらみどり」30キロ、にんじん30キロ、白菜90キロ。

